

平成31年度第4回白井市まち・ひと・しごと創生審議会

議事概要

日時：令和2年2月28日（金）午後2時～午後3時20分

場所：白井市役所本庁舎2階災害対策室2

出席者：【委員】

高尾 公矢会長、山田 壽一副会長、伊藤 治委員、染谷 敏夫委員
成島 誠二委員、和泉 貴裕委員、窪田 若菜委員、須田 緑委員

【事務局】

永井企画政策課長、冨田主査、迎主査補

傍聴者 6名

1 開会

(1) 委員の変更について

千葉銀行の代表委員が米田委員から成島委員に、京葉銀行の代表委員が菅野委員から和泉委員に変更となったため、挨拶をいただいた。

2 議題

(1) 白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

【会長】

白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料に基づいて説明

【会長】

それでは、ただいま事務局から説明を受けました総合戦略案について、前回の会議でかなり意見が出まして、それを踏まえて修正点を明確にしてもらいました。今の説明も、前回の会議からの変更点を中心に説明いただきました。提示された案につきまして、確認したいこと、あるいはご意見等がありましたら、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

今日が最後になりますので、今までなかった意見も含めまして、意見を述べていただきたいと思っております。

【委員】

では10ページの赤字で加筆されたところの最後の部分に、ビジネスマッチングや雇用促進につなげます、とあるのですが、市の計画であれば、この雇用促進を市民雇用の促

進にしたほうがより具体的かなと。工業団地の市民雇用率というのは、12～13%しかなく、前回の工業団地実態調査よりも下がってきています。ですから、そこをアップさせることで、愛着や定住につなげるということも含め、市民雇用の促進としたほうがいいのかということなのです。

次のページでも、市民の就業を支援しますという文言があるので、市民雇用の促進して、若い世代の定住につなげてはどうでしょうか。

【事務局】

もちろん市としても、市民の方に工業団地を認知していただき、近場で働いていただく職住近接というのを目指しているところです。工業団地の実態調査を見ると、多くの事業者が人材不足を課題としている現実があるところで、市民の方に働いてもらいたいという思いもあるし、近隣市も含めて、広域的な範囲で工業団地に勤めていただく方も増やしていきたいことから、現在、雇用促進という文言にしています。

鎌ヶ谷市や印西市と連携して就職フェアなどをやる中で、工業団地の企業などを紹介させていただいていますので、市民に限らず近隣の市に住んでいる方にも工業団地で働いてもらいたいということで、少し広く捉えた施策立てとなっております。

【委員】

わかりました。前段は大きく捉えてもらって、13 ページの3で市民雇用の支援しますとなっているので、それはそれでいいと思います。

【委員】

目標としては大変いいのですけれども、裏づけとなる予算として、全体の市の予算が幾らあって、その中で、それぞれの項目にどれだけ割り当てて、目標達成しようということは決まっていますか。この4目標のうち、今年は何れを、来年は何れをと決めて、もう少しアピールするような方向にしておかないと、総花的だと良くないと思うのですが。

【事務局】

市の令和2年度の予算規模としては、一般会計全体で198億円規模の予算を持っています。この戦略にどれぐらいの経費が今後かかっていくかというのを現在、各課から事業費を出してもらって集計しているところです。今後の財政見通しを立てながら、今年度にこの事業に幾らつけられるとか、この事業は、今年度はここまでに抑えて、次の年に予算をつけるとか、そういった調整を現在行っているところですので、それを見極めた上で各年度の事業計画を現在立てています。今はまだ調整中でお見せできない部分はあるのですけれども。

【会長】

そうすると、その具体的な予算の面については、この戦略には出ないということになりますか。

【事務局】

そうですね。総合計画の緑の冊子の29ページを見ていただければと思います。総合戦略は令和2年度から始まって、この総合計画の後期基本計画が令和3年度から始まるので、1年ずれている部分もあるのですけれども、29ページにあるように、財政の見通しというものを立てまして、5年間で歳入がどれぐらい見込めるのか、そして、計画事業以外の、基礎的なサービスの部分の事業費がどれだけあるのか。グレーで示している部分の計画事業費としてどれだけ確保できるのかなど、5年間の推移を見つつ、事業費の大きさ、事業規模というものを決定していくということになります。

【会長】

それは、総額はわかるのだけれども、具体的な、総合戦略でいうと、例えば目標1に対してどうなのかとかということ、明確にはならないのでしょうか。

【事務局】

5年の総額であれば、お示しはできるのですけれども、この冊子に入れるというよりは、この後期基本計画の事業費との調整を、今図っているところですので、現段階では入れられないことになってしまいますけれども、また来年度にでも会議の中でお示しをさせていただければと思います。

【委員】

もう1点。その予算は多分、各課で事業をしたいと思ってそれぞれ要求すると思うのですが、今年はこの中でも特に取り組むから、他の課は我慢してくれというような、いわゆる市として1本柱を決めて、それに集中的に予算を投資してというようなことはないのででしょうか。いわゆる総花的に各課が要求して、万遍なくやっていくのではなく、他のところは我慢してもらって集中してやっていくことによって、効果も分散することなく上がるような気がするのですが。

【事務局】

万遍なくやらなければいけない部分というのが当然あると思うのですけれども、その他、例えばこの事業については、この2年間で集中的にやらないといけないということがあれば、そこに集中的に予算をつけて、他の事業はその2年間は待ってくださいと、次の3年目からやりましょうという形で事業費を調整して行って、全体の歳入に見合った形での歳出規模に抑えていくという調整を現在しているところです。

あとは、万遍なくやるべき事業と少し優劣をつけるところを見極めながら、調整しているところです。

【委員】

8ページの基本目標の数値目標なのですが、子育て世代を支援する活動というのは、具体的にどういう活動のことか教えていただきたいのですけれども。

【事務局】

アンケートの中では、子育て世代を支援する活動というのが何を指すというところまでは示していないので、回答される方の個々人の解釈になりますけれども、PTAの活動や、子ども食堂のような活動を行っている方とか、お子さんに関わる活動を自分はしているという主観的に思った方のパーセンテージで、主観値なので、なかなかこれを何%にしようという目標は立てられないから、増加という形にさせていただいているところです。

【委員】

具体的にこのアンケートの文言を見ても、自分だったら答え方がよくわからないという部分があるので、この基本目標という大きなところで目標とする数値として挙げるのはどうなのかな。載せたところで、結局は主観による回答になってしまい、よくわからないなというのが正直あって。ここの目標が増えたから、若い世代が永住するのかといったら、もうちょっと他の取り上げ方があるのではないかなと思ったのが1点です。

あと、若い世代というのが、0歳から49歳だったのですけれども、子どもが増えていくというのと、20歳以上の大人が増えていくというのも、結構それでイメージも変わってくると思うので、何となく個人的には、18歳か20歳かはわからないのですが、子どもの割合と20歳から49歳という大人の割合の数値が見えたほうが、イメージを持ちやすいかなという気がしました。

【事務局】

この基本目標1の中の2番、安心して楽しく子育てできる環境づくりというのが、9ページの上段にあるかと思うのですけれども、ここにある安心して楽しく子育てできる環境づくりとはどういう環境かというところを少しご説明させていただきたいのですけれども、例えば、待機児童対策、子どもの居場所づくり支援事業とか、具体的な事業を記載させていただいておりますけれども、これらの事業が目指すところとしては、親子が家庭だけでなく、地域の中に安心して相談したり、過ごせる場がある状態がかなうことによって、地域ぐるみでの子育て支援が行われて、各子育て世帯が安心して楽しく子育てできる白井市だと感じてもらうことを目指しております。

地域ぐるみで子育て支援をしてほしいという意味で、市民の皆さんにも当然そこは協力していただきながら、そういう環境をつくっていく必要があるということで、高い目標として、子育て世代を支援する活動に取り組んでいる市民の割合を増やしていきたいというところで掲げさせていただいているところです。

2点目の総人口に対する若い世代の割合というところで、おっしゃるとおり、子どもが何%なのか、20歳から49歳が何%なのか。もっと言えば、30歳から49歳が何%なのかというところは当然あるかと思いますので、今回、目標はこのように定めておりますけれども、来年度以降進行管理していく段階で、内訳をお示しさせていただきながら、

どこの世代がどういう動きになっているというところをご報告させていただいて、今後どういった取り組みが必要か、この審議会でご意見をいただきたいと思っております。

【委員】

子育て世代を支援する活動について、主観的な指標で、数値にするのはなかなか難しいと思うのですが、それだったら余計に目標値を増加というのではなくて、主観だったとしても具体的に何%くらいの人に参加している意識が持てるように頑張りたいという目標は設定してもいいのではないかなと思います。

【会長】

目標値が増加になっている指標について、それを今のように、例えば、8ページですと、令和6年度、そのちょっと前ぐらいに住民意識調査をすれば、そこで測定できるわけですね。そうすると、今この段階で何%というのを入れるのはどうなのですかという質問なのですね。

【事務局】

経年変化を捉えられる部分については、過去からの傾向というのも少し踏まえて、数値としての目標設定ができるかどうかを持ち帰って検討させていただきたいと思っております。

【会長】

そのことは、増加のところ全部そうですね。

【事務局】

全部ですね、はい。

【会長】

だから、できれば数値は入れておいたほうがいいかなという感じはしますよね。またそれに向けて頑張るといようなことはできると思いますね。

【委員】

市民としては、先ほど委員がおっしゃったように、予算のところが一番気になる部分でありまして、以前資料でいただいた平成30年3月の第3版の総合戦略で目標値が出ていて、平成31年になっても目標を全然達成されていない部分があると思うのですがけれども、そこを前回のように、同じようにやっても多分、数値は伸びないと思うので、そこに重点を置いて予算をかけてやっていただければと思います。

3月1日に白井市の広報のほうで、市民に意見を募集するという記事が出たのですがけれども、これを市民の方が見たときに、前回と同じことをしていたのでは数値も変わらないですし、机上の空論になってしまうところがあるので、具体的に予算をどういうふうにかけるかというところが一番市民としては知りたいところなので、もうちょっと示せる範囲でここだけは絞ってやりますというのを出示していただいたほうがわかりやすいかなと思います。実際、そういう意見も出ると思うので、そのところをお願いしたいと思っております。

【会長】

前回の会議でも、どこを重点にするかということを確認にしたほうが良いという意見は全体の意見だったと思いますからね。

【委員】

農業の観点から意見を一つ述べさせていただきたいのですが、こちらの梨生産者意向調査結果など、白井の主要産業の梨生産に重きを置かれるのはとてもいいことだと思いますが、農業であっても、他の作物、水田や野菜などに関しても、もうちょっと触れていただくとよいかと思います。おそらく水田や野菜のほうが今、後継者なども少ないと思うので、こういう計画で触れられないと、意外とがっかりされたりすると思います。大まかにこちらの12、13ページでも、農産物ブランド化推進事業、農産物流通販売拡大事業など書かれておりますが、何かしら今、力を入れているものと、自然薯なども触れていただくと、生産されている方は、市は重きを置いてくれているのだとか、生産にも意欲が湧くと思うので、そういうところも大事にされたほうがよいかと思います。

あともう一つ。せっかくこのようにアンケートを市民の方からいただけるのであれば、需要、欲せられている作物等のアンケートもとっていただくと、それを考えて生産に踏み出す方もいらっしゃるかもしれません。せっかくそのような情報を得られるのであれば、アンケートをとっていただくと各生産者も参考にできると思うので、この点は継続してお願いできればと思います。

【事務局】

梨だけではなく全般的なといったところかと思いますが、白井の主となるのは梨であることはそのとおりだと思いますけれども、ここに掲げている農産物ブランド化推進事業の中でも、自然薯をもっとPRしていくような経費を盛り込んでいたり、流通販売の部分でも、市内外のスーパーに、白井の野菜を置いてもらえないかといったような交渉ですとか、梨だけではなくて、他のものに対しても、もちろんこの事業の中で取り組んでいくということで予定しております。

あと、市民の方が欲している食べ物。

そちらについては、農業の関係の担当課の産業振興課に伝えさせていただいて、どういった形でアンケートがとれるか検討させていただきたいと思います。

【委員】

お願いします。

【委員】

確認だけなのですが、この計画は国の求める人口減少と地域経済の縮小を防いでいこうというところの白井市版の計画であり、この計画に基づいて白井市が実施する事業について、ある程度の支援が受けられるということによろしいのですか。

【事務局】

国のほうでは、当然、法律に基づく計画になっておりますので、それを地方が推進する上では、さまざまな人的支援、情報支援、財政支援を進めていただいているところで

す。

財政支援の面として、地方創生推進交付金という交付金制度がございまして、補助率は事業費に対して2分の1。2分の1を国が持って、2分の1を市が持つというような交付金制度がございまして。第1次総合戦略のときも、できるだけその交付金を活用しながら事業展開を図っているところです。この交付金自体が申請すればもらえるというものではなくて、国のほうの審査が入って、評価点がつけられて、評価点が一定以上を満たせば採択されるというところで、ここ2年ぐらいは白井市としてエントリーできていない状況になっております。それまでは毎年いただいていたのですけれども。

その交付金の求められる要件として、事業がいずれ自立できること、政策間連携があること。要は、農業であれば農業分野にとどまった事業ではなくて、農業と、例えば教育、農業と福祉であるとか、そういった政策間の連携があること。大きくはその2点が審査のポイントとなっていると聞いております。ここで第2次の総合戦略ができ上がりますので、今後、事業を進めていく中でいろいろな連携を検討しながら、できるだけその交付金を活用して市の財政負担を減らしながら効果的な事業展開ができるよう検討していきたいと考えております。

【委員】

この計画は、もう私はこれでいいかなと思っているのですけれども、この先の展開として、個人的に工業団地でやりたいと考えていることがありまして。50人以上の事業所については、法定の障害者雇用率を達成しなければいけないという義務になっています。ただ、白井の工業団地は製造業で、危険性があるということで、免除申請をしているのです。ただ、それもいつかはなくなってくるので、障害者雇用を進めなければいけない。中小企業でも、大手のように特別会社を自分で作ってそちらで障害者を雇用して、雇用率に算入することができるという情報があります。

私のまだ私案なのですが、組合形式の特別会社をつくって、出資した事業所に対してその雇用率に算入するというような取り組みを考えているのです。ですから、共同での障害者雇用事業、それとあわせて、事業組合をつくるには自立できるような事業をつくっていかなければいけないのですけれども、そこで荒廃農地と高齢者を活用して、障害者とタイアップしてやっていこうという。それを組み立てたときに、この事業が、交付金の対象になるのか、ならないのであれば、障害者雇用の取組を少し組み入れてほしいなと思います。

【事務局】

交付対象になるかどうかというのは、国の判断も入ってくるころではあるのですけ

れども、今お話聞いている限りですと、自立性だとか政策間連携といったところは十分あるものになりますし、聞いていて、とてもおもしろそうな事業だなと感じたところで、十分交付金の対象にはなり得ると思っております。

今後お話を詰めていく中で、もしそういう事業展開が新たに必要だというようになれば、5年の計画にはなりませんけれども、この審議会でもう一度議論をさせていただいて、計画を改定していくというのも一つの手法だと思っております。

【会長】

ぜひ具体化していくことを望みます。

【委員】

相当なエネルギーが必要なのですけどね。

【会長】

これから障害者、高齢者、子ども、どれかに重点を置いてやっていくというような施策をしないと、まちの特徴も出ないですよ。それから、若い人たちが出ていくような状況は、このまちにとっては好ましくないですよ。だから出生率も落ちていくわけで、白井は将来暗いですよ。今までは比較的よかったですけれども、暗い社会になっていきますよ。だから、そういう事業をやってアピールしていかないといけないですよ。梨だって船橋に負けていますものね。だから、そういう特徴を持っていかないとだめだと思います。

【委員】

疑問点1個だけ解消させていただければと思いますけれども、こちらの後期計画の例えば29ページで、まずこの財政の見通しは、国の補助金を全部見込んだ計画ということによろしいのですか。

グレーの計画事業費、戦略事業費というのが、今回ここで議論している予算で、およそ230億の半分の120億とか110億を国から予算をとる計画ということによろしいですか。

【事務局】

歳入の欄の国・県支出金という欄があるのですけれども、ここに計上している額を国なり県なりから、補助金なり委託金としていただいて、右側の歳出の事業に充てていくというふうになっております。

国、県のお金は、歳出の上の緑の部分にも使われています。グレーのほうが緑の内訳になり、うち計画事業費というような形で見ていただければと思います。

ですので、この国、県支出金の全額がグレーのところに当たっているというわけではないです。

【委員】

全額ではなくて、グレーの事業費の半分が補助金で賄えるという計画だという認識で

今いるのですけれども、違うのですか。

【事務局】

地方創生推進交付金を活用すれば、一つの事業に対して半分補助がありますが、当然他の補助制度もありますし、全く補助金が出ない性質の事業というのもありますので、そこは事業によってさまざまというところになります。なので、グレーの半分が必ず国から補助があるというわけではありません。

【委員】

逆に言うと、今回の事業の補助金はどのくらい見込んでいるのですか。

【事務局】

今はごめんなさい、手元にないので。

【委員】

計画事業費と戦略事業費というのは別なのですか。

【事務局】

はい。この総合計画の30ページを見ていただければ。

30ページの左から三つ目に重点戦略と三つあるかと思うのですけれども、戦略1が、若い世代定住プロジェクトとか、この三つが重点戦略となっていて、それが重点戦略事業費という表記になっています。

ただ、この重点戦略だけ市がやっているわけではなく、基礎的な公的サービスもやっていますので、それら全て含めて計画事業費ということになります。戦略事業費というのは、あくまでも市が重点的に力を入れていくべきものというところでの戦略事業になっておりまして、それ以外にも経常的にやっている事業というのがありますので、そういったものについては、この戦略事業費には含まれていないというところですよ。

【委員】

その戦略事業費として半分ぐらい補助金をもらいたいということですか。

【事務局】

申請して認められれば、もらえるということです。

【委員】

まだ赴任して1カ月なので、白井市の印象ぐらいしか、言えないのですけれども、地域の声を3点ぐらい聞いていることがあります。一つが、いろいろ戦略があっただと思うのですけれども、4年ほど前に市街化調整区域の開発をやめたことで、不動産事業が縮小傾向になって、人口が伸びないのではないかという話は聞きました。

あと、工業団地は本当にすばらしい技術力を持っているところだと思っていますが、その周りは市街化調整区域のため、住宅が少ないと聞きました。新しく働く方の住む場所が確保できない中で工業の振興をやろうというのも、なかなか難しいのかなという気がしています。

あと、農業の関係で後継者問題は非常に大事なことだと思うので、これは喫緊にやっ
ていったほうがいいのではないかなと考えています。

そもそも白井市だけではなくて、千葉県全体でも農業は盛んですし、個人的な意見で
すけれども、千葉県の梨が本当に世界で一番おいしいのではないかなと思っているぐらい
なので、そこは本当にどんどん推進していただきたいと思いました。

【委員】

私も今月来たばかりですし、居住地は違うところのございますから、梨は認識してい
ましたけれども、自然薯は知りませんでした。私も感想としてですけれども、いろい
ろな市町村が頑張っている中で、白井市はもうちょっとPRする具体策が見えると、わか
りやすいのかなと。

これを読んだときに、白井駅は中心都市拠点、西白井は生活拠点というような位置づ
けで書いてあるのですけれども、西白井駅北側の駅前にはコンビニがないのです。今度
マンションもできるので、いろいろ変化はあると思うのですけれども。あと、市役所に
車で来るときも、ロードサイドも点在していて、どこに力を入れてやるのかインフラ整
備も大事ですし、そういう重点ポイントというのがもっともっと見えてくると、市民目
線としてもわかりやすいのかなと思いました。

【会長】

それでは、白井市の総合戦略につきまして、さらにご意見がありましたら、この際、
お伺いしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

いいですか。では、委員の皆さん方からさまざまな意見をいただきましたが、この総
合戦略は、あくまでも今後5年間の取り組みということになります。5年でできること
はある程度記載していると思います。その他出された意見につきましては、今後、長期
的なまちづくりに生かしていただくよう、事務局にはお願いしたいと思います。

それでは、総合戦略、この案につきましては了承していただいたということで、よろ
しいでしょうか。

【各委員】

はい。

【会長】

ありがとうございました。この案については、3月10日からパブリックコメントを実
施して、3月末までに策定するというございます。パブリックコメントで出され
た意見への対応につきましては、私と副会長にご一任していただきたいと思いま
す。その上で事務局と調整させていただきたいと思います。一任していただいてよろ
しいでしょうか。

【各委員】

はい。

【会長】

どうもありがとうございます。

(2) その他

それでは、議題の2です。その他について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

事務局より、地方創生に向けた国の動きについて資料に沿って説明。

【会長】

ただいま、事務局から国の動向の一つとしまして、SDGsについて説明をいただきました。今、世界中でSDGsの取り組みが進められつつあり、確認しておく必要があるかということで、説明をお願いしました。何か確認したいというようなことはありますでしょうか。よろしいでしょうか。

【各委員】

はい。

【会長】

今、説明でもありましたけれども、白井市としてこのSDGsのモデル事業に積極的にエントリーしていくことを考えられたほうがいいかもしれません。そのためには、普段から具体的な、ここがうちの特徴だということを示して、取り組んでおくということですよね。全く白紙の状態でエントリーするというのはなかなか難しいということだと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

全体的に思ったのが、白井の特徴とは何ですかと言われた場合に、すぐ言えるかどうかだと思うのですが、白井って何と言われてもぼやっとしているので、そこら辺がすぐ瞬間的に言えるようなことをしておかないとまずいような気がしました。それがこの戦略の中にもありましたように、白井市の特性の整理。特性を整理するほどいっぱいあるかどうかの危惧もありまして、特性と言われたらこれだということを共通認識として持つとよりいいかなと。そのためには各部署が頑張っていく必要があると思います。

【会長】

前からの課題になっていますよね。特徴は梨や工業団地ですと言ってきましたが、なかなか通じないですよね。だから、それがつながってくるような施策というか、そういうアピールの仕方が必要になってくるのかなと思います。

【委員】

先ほどのまち・ひと・しごとの基本目標とリンクする話だとすごく思います。だから梨と言われていましたけれども、工業団地の特性は本当に生かしていただいて、千葉県の有数の工業団地ですから、そことのリンクというのは非常に大事なことだと思うので、

工業団地でお勤めの方が特に住みやすい環境づくりをすることで、産業もさらに発展しますし、今工業団地の中の一番の問題点は人材確保だと思いますから、そこに連携するような、工業団地にお勤めの方がここに住みたくなるようなまちづくりというのが一番課題なのかなという気がしました。

【委員】

私も、白井市の特徴をPRしていただきたいと思います。

【会長】

そうですね。だから、これから白井市のPRの仕方も考えていかななくてはいけないということなのでしょうね。

【委員】

市にも伝えたことがあるのですが、白井市のホームページのシティプロモーションのページ中に、工業団地のホームページのリンクを、ただ張っているだけで、工業団地についての魅力を全然市として発信していないのです。そこは市として工業団地をどういうふうにするかを、その中でちゃんとうたっていく、そのことが一つの特徴になります。そこで農商工の連携と言っていますが、具体的に進んでいない。何を核にしていくのか。以前の千葉ニュータウン、住宅都市としての白井市を核にするのか、これから伸びるであろう産業を核にして取り上げていくのか。核をまず示さなければいけない。そして、今、核となるものがあるのであれば、それは白井市のシティプロモーションの中にしっかりうたっていくということを始めていかないと、スタートを切れないと思います。

【委員】

梨しかないという印象です。PRのほうも梨については、継続的にされていますが、それ以外にイメージが湧かないです。

【委員】

今のホームページのシティプロモーションの中に、白井の梨というチャンネルが一つ、確かにあります。でも、開くと観光案内の地図しか出てこないのです。白井の梨について何もPRしていない。それではシティプロモーションにならないでしょう。もう一度ホームページからよく見直して、梨と産業と住宅都市の千葉ニュータウンが核になるのであれば、それについて、平等にしっかりうたっていくことが大切です。核としてどれを選んでいくか、あるいはそれを連携させるのかというのを決めていかないとはいけません。

【委員】

SDGsのモデル事業の選定都市一覧の提案タイトルを見ていると、いいなと思うので、本当にこういう提案タイトルをつけられるまちぐらいになるといいなと思います。

【委員】

私も、引っ越してくるまで白井市の存在を知らなかったのです。梨を売っていくのであれば、以前タイに梨を売りに行っていましたよね。そういうことをするのも大切ですが、まずは日本の中で、もうちょっと白井の梨の知名度を上げてもらって。実際私も20世紀梨が梨だと思っていたのですけれども、白井に引っ越してきたら、こっちのほうが断然おいしいと、それで勝負できると思うのです。だから、もうちょっと持っていく方を工夫して、千葉県の市町村は出ていないですけれども、SDGsのモデル事業ができるように。

千葉県の代表として出るようになってくれば、もっと全国的に知名度も上がるのではないかと思います。

【会長】

川崎市とか出ているのですが、千葉県はどこも出ていないですね。ここにエントリーしていくことを、白井市がやっていかないといけないと思いますよね。そのときにキャッチフレーズみたいなものが明確になっていくのだと思います。とにかく早く取り組むというようなことが必要なのかなと思います。他によろしいでしょうか。

それでは最後に、事務局から何かありましたら、お願いしたいと思います。

【事務局】

では、今年度最後の審議会ということでございます。お礼を申し上げさせていただきたいと思います。

まず、本日は総合戦略の策定に向けて、今回も、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今年度、6月に委嘱をさせていただいて、今回で4回目の会議ということで、スケジュール的には非常にタイトな中でいろいろ議論いただきまして、本当にありがとうございました。

本日、案という形でまとめさせていただきましたので、これからパブリックコメントを経て3月中に策定をいたしまして、おそらく4月の中旬になると思いますけれども、冊子化されたものをまたお手元にお届けさせていただきたいと思います。そして、次回、年度改まったの会議というのがまた予定されておりますけれども、時期未定でございますので、その辺がはっきりしてきたら、また調整させていただいた上でご連絡をさせていただきたいと思いますので、今後とも引き続きよろしくお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

【会長】

それでは、これをもちまして、平成31年度第4回白井市まち・ひと・しごと創生審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。